

101-300

問題文

上記の患者に関連した記述のうち正しいのはどれか。2つ選べ。

1. フドステインは去痰の目的に用いられている。
2. 気管支ぜん息と異なり、禁煙は治療に影響を与えない。
3. 病状が増悪するので、インフルエンザワクチン接種は禁忌である。
4. テオフィリンにより、尿閉の副作用が出やすいので注意が必要である。
5. 改善が見られなければ、サルメテロールキシナホ酸塩の追加を考慮する。

解答

問300 : 1, 5問301 : 1, 5

解説

問300

まず喫煙指数とは、「1日 a 本 × 喫煙年数」のことです。大体タバコ 1 箱は 20 本です。この患者は、1 日 24 本、50 年間吸ってきたということです。

次に処方ですが、チオトロピウムは「トロピ」があるので抗コリン薬です。気管支を広げてくれます。主な副作用は、口渇です。禁忌が閉塞性緑内障、前立腺肥大症で排尿障害がある場合 です。

以上より、正解は 1,5 です。

ちなみに、選択肢 2 ですが
うがいは推奨されます。口渇などの副作用軽減が期待されます。カンジダ予防は、ステロイド吸入に関してです。チオトロピウム吸入に関してでは、ありません。

選択肢 3 ですが
フドステインは、去痰薬です。カルボシステインなどと同様のカテゴリーの薬です。チオトロピウムとの相互作用は特にありません。

選択肢 4 ですが
喫煙によってチオトロピウム作用増強はありません。喫煙といえば、CYP 1A2 の誘導 です。この知識との混同を狙った選択肢かと思います。

問301

選択肢 1 は、正しい選択肢です。

選択肢 2 ですが
禁煙により、肺機能の低下を抑えることができます。禁煙が、治療に大きく影響します。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが
COPD 患者は、呼吸器感染症が重症化しやすいことが知られています。そのため、インフルエンザワクチンの接種は推奨されます。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが
尿閉の副作用があるのはチオトロピウムです。テオフィリンでは、ありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 1,5 です。